

自主行動計画WGにおける主な御意見等

平成23年11月

1. 生産量の見通しの蓋然性を上げるべきではないか。

【関連するご意見】

- 2008年度から12年度の平均生産量がどうなるかによって蓋然性がかなり変わってくる。
- 2008年度から12年度の5年間平均生産量の見通しを見ますと、電機・電子、産業機械、建設機械は2005、2006年くらいの水準に戻ると読まれています。一方、ベアリングは2002、2003年くらいの水準、工作機械工業だと1997年の数値をそのまま使われている。ここの生産量の蓋然性を上げていく必要があるのではないかと思います。
- 目標達成の蓋然性という点から言うと、生産量の見通しが非常に重要な問題。
- やはり生産量の立て方が問題。一番端的に出ているのは化学とゴムの生産量の推移なのですが、ここまでの足取りは両業界とも非常に似ているわけです。ところが、目標達成の蓋然性のときに立てる生産量が、化学はかなりのリバウンドを見込んでおきまして、一方、ゴムのほうはさらに減っていくという見通しの結果、蓋然性が非常に違った形にみえてくる。
- 見通しの出し方が業界毎に違っていて、我々のところは生産量がかなり悪い見通しであるというご指摘がありました。我々の業態として稼働率を上げないと採算がとれないということで、生産量の見通しを慎重に計画した上でいろいろな設備投資、設備対応をいたしますので、このような数字が出ましたが、見通しがあまりにも堅過ぎる部分もあります。その辺りは今後修正も検討していきたい。(業界団体)
- 生産台数の予測等は難しいことはわかっているのですが、業界全体でそれをやるというのではなくて、これに該当する部分では大体これぐらいの生産になるだろうとか、これぐらいの近くのものが多くなってくるだろうとか、そういう話は何かバックで議論されていないのですか。

2. LCAでの評価を進めるべきではないか。

【関連するご意見】

- LCAをちゃんとやるのだとすると、民間ベースで、経団連の中で業界ごとに自主行動をやるだけではなくて、何かやはり横串を出すような仕組みを民間の側でも考えな

ければいけない、そういうタイミングにきているのではないか。

- トータルのエミッションを減らしていけばいいわけで、その中で環境と経済の両立ということを考えるわけですから、余り製造を絞るといふ、今までのやり方を無理にやるよりは、ライフサイクルのエミッションを減らしていく。今後の自主行動計画というものも若干そこを考慮しないと、今までの延長線上で、製造部門の絶対量を減らすということが、果たして全体からみてどうなのかということもありますし、そこよりもちょっと違う目標の立て方というか、そういうことが必要になってくるのではないかと考えております。
- 自分の生産、電気なら電気、ガスならガスの製造プロセスでの削減だけじゃなくて、それらのプロダクトでユーザーがどうするか。これは先ほどリサイクルの話もありましたけれども、そういう側面が大事。
- 国際的にみれば相当ポテンシャルが高いというその貢献が期待されるということをお示しいただき、全くそのとおりだと思っておりますけれども、一方で、こういった自主的な取り組み等の中でこういう貢献というものを示していくという話になりますと、国際的にも評価されるようなちょっとしたモニタリングの方法を今後考えていかなければいけないのかなと思っております。今はとりあえず検討されている段階かもしれませんが、特にそういった国際的な日本の技術がどのように貢献しているのかということ、今後どうモニタリングしていくのか。
- ライフサイクルで排出量が減るようなものの普及拡大をどうやって進めていくか、そういう制度設計をしていくことがとても大事。
- 高機能材の使用段階での削減について、製造時にCO₂排出量がふえても消費側で、ライフサイクルで見れば、貢献しているといった考え方は、一般論として十分に理解できますし、またハイブリッド車の例がございましたけれども、自動車が海外で使われた場合に、輸出先でCO₂の削減に貢献できる。こういった考え方というのは日本としてぜひ主張していくべきではないかと思っております。
- LCAの話については、日本がすぐれている点をどうやって国際交渉の場で認めてもらうのかということについて、もう少し知恵を出さなければいけないのではないかと考えています。LCAの話は毎年お願いしておりますけれども、国としてこういったものを評価する仕組みそのものがないというのが最大の問題だと思っております。(業界団体)
- 今のハイブリット化などはそうだと思いますが、それによってトータルははるかに減ることがわかっているならば、それに対してそれをやめるべきだという議論には絶対なりませんので、できるだけそういう事例でいいのですが情報を出しておいていただけて頂きたい。

3. 自主行動計画の成果をもっとPRすべきではないか。

【関連するご意見】

- 積み上げてきた実質的な取り組みに対する実績はかなり評価されているだろうけど、やはり第三者評価としてきちんと社会に発信しなきゃいけない。
- 産業界のほうの努力というのは了解させていただいておりますし、結構下がっているのですが、問題の民生、いわゆる家庭系が全然下がらないのです。ここのところについて、ぜひ産業界の方々のご協力をお願いしたい。なかなかPRとか普及啓発というのがうまくいかない。言葉は悪いのですが、政府系のほうも、普及啓発事業というのは予算がつかない、そんなのは無駄だといわれる方もおられて、これは問題なのですが、その辺で産業界のほうで何かご協力をいただけないだろうか。
- ここでの議論は公開していただいているのですが、もっと一般の方に分かりやすい形で公開していただく方がいいのではないかと思います。11年間座っております、誠にフラストレーションがたまっておりますので、ぜひきちんとご対応いただければと思います。
- 今、業界の中でも場合によっては自主行動計画に参加している方が少ない。それを少しでも多くするにはやっぱり努力して、報われていいんだと世間が認めるよう、表彰だけではなくて、マークでアピールすることにより、参加しているお店と参加していないお店との差が見えるように何とか工夫はできないか。格差というのは下手をすると難しいと思うのですが、そういうところでもう一工夫なさっていただけたらいいかなということ。
- 経済産業省とか何らかの協会以外のところが各業態でのトップランナーの公表制度みたいなものを何かお考えいただいたらと思うのですが、いかがでしょうか。

4. これまでの実績の評価を総括するべきではないか。

【関連するご意見】

- 積み上げてきた実質的な取り組みに対する実績はかなり評価されているだろうけど、やはり第三者評価としてきちんと社会に発信しなきゃいけない。(再掲)
- これだけの蓄積ができたということで、ひとつ過去を振り返って、まとめというものを提示していただくと大変ありがたい。どの業界さんも血のにじむようなご努力をされたと思います。けれども、これはやはりこの範囲でとどめておくべき情報ではないので、まとめたものがぜひいただきたい。
- 景気低迷の影響をどういうふうに評価していくのか。稼働率の低下があって、結果的にエネルギー原単位が悪くなったという見方もあるかもしれませんが、逆に救われたとい

う面も、特に排出量の面から言えば当然あるわけであって、そのところを13年かかってやってきたわけですので、ぜひまとめていただきたい。

5. 海外への技術移転を進めるべきではないか。

【関連するご意見】

- 高度な技術、例えば苛性ソーダなども他の国に比べると随分優れているようですが、このような技術の海外移転についてはどのような状況か教えてください。
- 日本の技術というのは、海外に比べてエネルギー原単位が非常によいというのはそのとおりだと思いますけれども、それをうまく利用して、海外展開をいろいろやっておられるのではないかと思うのです。途上国等々で技術協力をされていると認識しているのですけれども、そういったものの実績をぜひご披露いただけるとよろしいかと思います。
- もうちょっと外国を学ぶという視点の解析で図をつくっていただけないでしょうか。例えばドイツは原単位が非常に低いというのがあります。それから、しばしば話に出てきているスウェーデンなどは、多分水力などがあって参考にならないと思うのですが、そういうのが出てきていないというのがありますので、そのあたりは外国のいいところを学ぶ解析をしたものが見たいです。

6. 廃棄物燃料からのCO2排出量を把握すべきではないか。

【関連するご意見】

- 廃棄物燃料について、国内ではCO2排出をゼロとしてカウントしておりますが、国外では、廃棄物のエネルギー利用のところ、あるいは産業部門で計上していたりもしますし、一体どのぐらいCO2を排出しているのかも把握できる方がいいのではないかと思います。何の廃棄物を使っているのか、CO2をどの程度排出しているのかをお示しいただけないか。
- 廃棄物の調達が難しくなっているということで、今後の見通しを教えてくださいと思います。仮に廃プラを海外から輸入して燃料目的で使うと、CO2排出が日本全体として増えてしまうので、そのようなことがないよう注意していただきたい。
- 廃棄物処理とのバウンダリー調整が必要ではないかとも思っております。例えば廃棄物を使う場合でも、RPF、既に加工されてくるものをもってくると、自前でかなり確保するというところでは違いがあるのではないかと思います。

7. その他

- 個々の産業のセクターでこれだけ努力されているというのではもう限界に近くなってきているのではないか。
- 原単位目標を立てているためにかなり苦勞されているところも出てきているようですので、総量の排出目標もぜひ立てていただけると、この機会にお考えをいただきたい。
- 新しい技術の開発は、既存のものだけではなくて、ぜひ新しいものにもチャレンジしてほしい。そして、特に日本でやるということであると、国際競争力とかといったものを非常に重視して、これからの国際的な中で日本の立場をつくってほしいと思います。そういう中で特許とか、それから技術の蓄積とかノウハウの蓄積、そういったものをぜひ進める。きちっとそういう基盤のしっかりしたそういった土台をつくっていくことが、これからの日本の国力にもなるのではないか。
- 業界のトップの方とか環境部ということではなくて、自主行動計画に参加されている企業の方たち一人一人が責任を確認するような手だてがあったらいい。
- 投資をいろいろするわけですが、投資の効果、それによるCO2あるいはエネルギー削減というところがみえてくるのではないかという気がいたしますので、次の代のときには、そういったところも含める必要があるのではないか。
- どうみても、もうちょっと目標を上げてもできるのではないかとこのころがございますが、目標を低くしていると、努力していないのではないかと逆にみられる。目標を上げれば、それだけ努力しているのだなという感じにみえるので、実績で十分いけそうなところは目標のさらなる向上を目指していただきたい。

(以上)